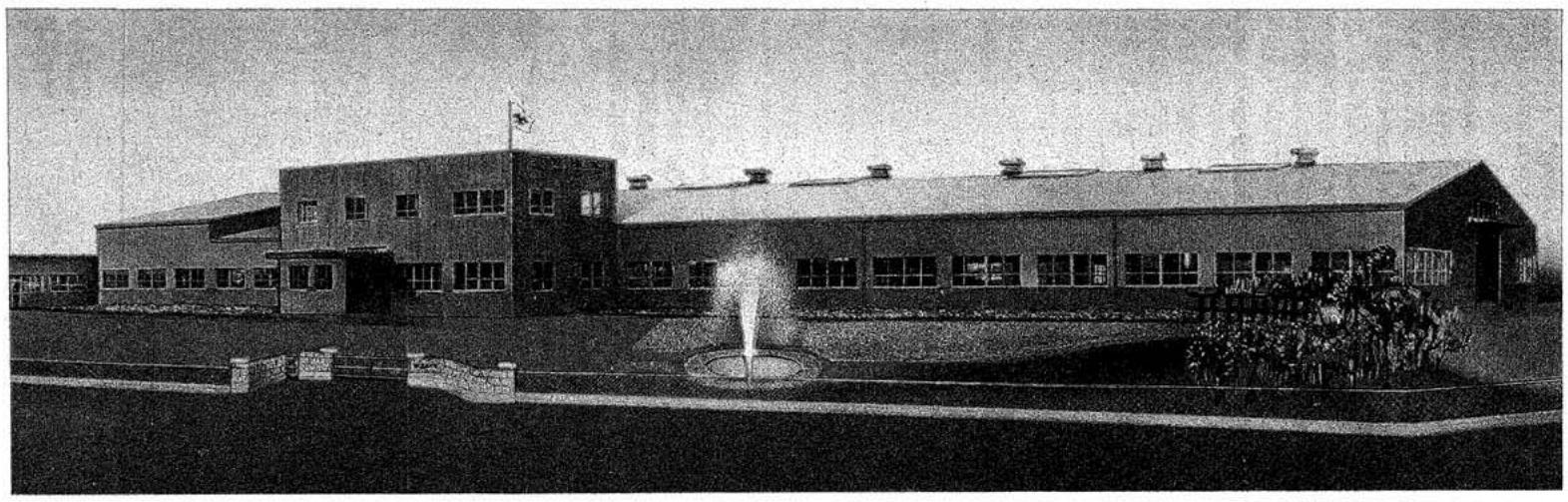
三笠産業ニュース

発行所
東京都千代田区猿楽町 1-4-3
三笠産業株式會社
電話 東京03(292)1411 大代表
テレックス 222～4607
郵便番号 101番
PR旬報　年4回発行

三笠館林新工場落成

場　所　群馬県館林市近藤字障子 178—226
電話　02767（3）1221（代）
敷地面積　18,000㎡
総建坪 5,000㎡（工場 2,640㎡　倉庫 1,320㎡　事務所 378㎡　食堂 662㎡）
事務所内容　一階　事務室、応接室、救護室、ボイラー室
二階　社長室、会議室、管理人宿舎



翌の三笠を担う

館林工場のスタッフ

前列向って左より長谷川職長、小林工場長、京谷社長、斉藤経理課長、後列左より小川、吉田、恩田、青木(良)、飯塚、曾根、木村、青木(健)の各班長

館林旧工場の思い出

三笠産業(株)
社長　京谷弘道

皆様方の絶大なるご支援により、このたび館林近藤工業団地の一角に弊社の新工場が竣工致しました。これで私共の多年にわたる念願も漸く達成され、多数皆様のご来場を得て、あたたかい数々のお祝詞を頂戴し、深く感激致して居るところでございます。ここに改めて厚く御礼申し上げます。

永らくご愛顧をいただいておりました旧工場は、四月中に設備機械その他全部の施設を悉く新工場へ移して、五月早々操業の運びとなっております。顧みますに、旧工場は昭和二十九年六月一日に開設したもので、事務所その他の附属建物は新築致しましたが、工場そのものは館林市外に在って戦時中つくられたという繊物工場をそっくり買い取り、これを解体して移築したものでございます。初めてこの建物の買取りに館林へ乗り込んだのが私のそもそも館林へ足を踏み入れた第一歩だったと思います。その時建物所有者の代理人としてお目にかかったので、今に必ずよかった方が、現在八十三才の長寿を保たれて尚かくしゃくとしておられる当時の館林町会議員大塚彦太郎翁でした。其頃の大塚氏は、仲々老獪で、手ごわく、私の指値には仲々応じて呉れず、可成りこの交渉は難行致しました。当方の腹づもりは、二棟（一棟一五〇坪）ということで、予算もそれ以上は用意されてなかったのです。ところが交渉の途上三棟買って貰えば私の言い値にすると言うところまで折れて来られましたので、今更後へ退くわけにも行かなくなり、遂に三棟買付けることにして手を打ってしまいました。このことを早速帰社して伝えますと、当時の経理部長だった今は亡き村松専務は眉をひそめて、それは無茶です、余分な金は一銭もありませんといって応じて呉れません。又やがて工場長となる小林も、今のところそれだけの仕事もないのに一体どうするつもりですかと、これ又村松に同調の形で、まことに芳くないことになってしまいました。しかし、一たん決めたものを今更引込めるわけにも行きませんので、今に必ずよかったと言う時が来るから、目をつむって、何んとか金の工面をして呉れと説得し、漸く、館林工場の設置を見るに至ったようなわけでございます。それが何んと二年ばかりしたら狭くなって増築をしなければならないことになり、更に増築に増築を重ねて、今日に至ったのですからまことにおかしなものでございます。想えばその時、大塚さんに勧めていただいた一余分の一棟が将来発展の糸口になったような気が致します。

開設式の当日は、恰も館林に市制が施行され、当時多々羅村といっていた工場所在地もこの日館林市に編入されました。

その朝のこと私達が東京から車を連ちねて館林に入りますと、各戸に国旗を掲げているではありませんか。私はそれを見て「オイどうだ、三笠の工場落成式に何んと館林の人達が国旗を掲げて祝ってるではないか」と言いますと、誰やらが「社長、それはちがいます。三笠のためではありません。今日から管下に市制がしかれることになったからです」、「アアそうか、どうりで、馬鹿に出来過ぎていると思った。しかし、いいではないか、吾々だけでもせめてそう思っていれば」と今考えれば随分図々しいことをいったものだと思っています。そんなことから爾来館林とわが三笠とは、切っても切れない何か強いきづなでつながれているような気がしていました。このたびも不思議なことに、私が敢て求めてこの工業団地を手に入れたわけではなかったのですが、それが何んと一昨年の暮のこと、年末のご挨拶に館林の群馬銀行さんに参上したところ、増田副長さん（現在熊谷支店次長）から工業団地のお話が出たので冗談まじりに、首尾よくこの話が纏ってクリスマスプレゼントにでもなれば儲けものですね——といったことが、年が明けると共にトントン拍子に話が進んで、遂に今日のようなことにまで進展したわけでございます。思えば館林というところは、市民の皆様も大変良いお方ばかりで、私が最初の頃御厄介になった多々羅の魚又さんという料亭も、本来この料亭は、宿泊出来ないことになっているのに特に私だけは、内客として泊めていただいていました。私が館林へ行くことがわかると、普段使っていない寝具を朝から日に干して、いろいろと私に心をくばっておられたとか、又町中の一柳閣さんにしても、今は亡くなられた女将が大変気を遣われて、泊った翌朝など、前夜遅くまで飲んでいて女中が起きないので、寒中でも自から早々と起床されて風呂の仕度をして呉れました。又初めて館林へ来た時、親切に私を多々羅沼の鮒釣に案内して下さったのが今でも下請工場として協力しておられる斉藤製作所の所長斉藤勝三郎さんでした。このようにして、私は館林では何時も恵まれていました。しかも私にとって、常に仕合せをもたらして呉れるまことに結構な故郷でもありました。私は今でも、毎年一回ダース会という新年だけ顔を合わせる親睦会の仲間入をさせていただいております。この顔振れは、館林市長、同市議会議長、同商工会議所会頭、同農協組合長、同信用金庫理事長、群馬銀行支店長、正田醤油社長等の外私と小林工場長が参加していて、会員の数を一打以内にしぼってそれ以上にしないというのが、お互の申し合せで、館林以外からは、よそ者の私だけが異色な存在というわけでございます。この会は、現在渋川市に移られている元館林登記署長の小鮒氏と現館林信金理事長の遠藤氏のきも入りで発足したもので、館林市の発展に寄与するための個人的な忌憚のない意見を述べ合って何かの資料にして貰おうというのが狙いで、勿論政治的な意味なぞさらさらふくまれておりません。私は工場のことは、小林工場長にそのすべてを任せてありますので、大体月に一回か二回位いしか行く機会がありませんから、年に一回のこの新年会が何よりの楽しみでございます。前市長の遠藤氏とは、特にご昵懇です。とりわけ群馬銀行さんには、館林と言い、東京と言い今更改めて申し上ぐるまでもなく、このたびの工場の敷地から建物に至るまで、そのすべてをご援助下さっているわけで、この前の本社ビルの建築のように、まるっきり弊社は群銀さんにオンブしているといったところでございます。これも前橋市に本店のある玉尾頭取を初め浜野館林、外山前池袋両支店長のご理解あるお思召しによることと深く感謝しておるものでございます。

何れ、新工場が完全操業の暁には、少なくとも現在の倍増生産を目標に考えておりますので、これからの弊社の動きも一段と活発になり、代理店の皆様に対しても、更に、一層の御協力をお願いしなければならないと思います。又それだけに弊社としても皆さんのお顔をつぶさないよう立派なものでございます。

開設式の披露パーティ、向って右より二人目小林工場長、三人目斉藤製作所長、六人目太田館林市長代行

向って右側の二棟最初に建てた工場、左側二棟第一次増築工場

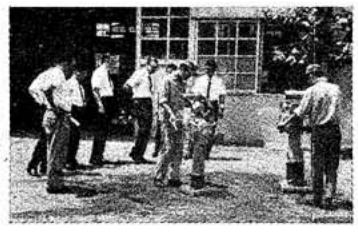
初めて館林工場へ全国の三笠代理店会の方々を招待した記念写真

第二次増築上棟式、右側先頭元遠藤館林市長、左側京谷社長、一人おいて後ろ京谷専務

全国三笠代理店会の方々をお招きして、増築披露旁々工場前で新製品の実演風景

来場された三笠代理店会の方々に八木節おどりを披露する工場従業員

三十九年六月中国天津市訪日視察団羅雲女子団長等来場



三十九年七月米国ブローノックス社ソロンバン氏等来場、タンピングランマーの運転説明

私の最も尊敬するお一人でございます。遠藤理事長は真面目な温厚な方で、典形的な銀行マンであられるのに、私のようなガサツ者と馬が合うというのも不思議なことだと思っておりますが、これに甘んじているわけではございません。常に特殊建設機械メーカーとしてのイメージを保持せんがため、このところいくつかの新製品を開発していることは皆さんもご承知の筈と思います。只それが不幸にして未だ実らないというところに吾々の努力不足を遺憾に思っているものでございます。

どうか永い目で見てやって下さい。決して吾々は、あきらめて投げ出しているのではございません。たとえどのようなご批判を蒙ろうとも、そのご批判はわが三笠を愛して下さるあたたかい御激励の鞭であると有難く思っております。

吾々は今こそ心気一転不屈の三笠魂に拍車をかけて、必ずや何かを物にして見せようという強い信念を燃やしております。どうか皆様に於かれましては今後共一層三笠を御愛顧下さいましてこの上のご鞭撻とご指導のほどをお願い申し上げる次第でございます。

製品をご提供申し上げなければならないと思っております。

従って、私共は精々一生懸命に頑張る外ありません。近頃の三笠はさっぱり新製品らしい新製品も出して呉れないとか、三笠製品もこの頃は魅力が薄らいで来たなぞという御批判を耳に致すこともございますが、これは何分にも発売以来十七年にもなりますと、すっかり三笠製品も定着して、かつての新製品も今では、建設工事に欠くことの出来ない必需品にまで普及されてしまったのですから、このようなお気持になられるのも御尤もなことと思っております。しかし、三笠は決して、これに甘んじているわけではございません。

今月は、紙面の都合に依り俳句欄を休ませて頂きます。

編集部

御祝辞

館林市長　岩上泰治

特殊建設機械のメーカーとして業界に大きく躍進を続ける三笠産業株式会社が、このたび生産力の拡充とあわせて生産の合理化を図るため、昨年十一月館林新工場の建設に着手し、ここに落成をみられましたことは、誠によろこばしく心からお祝い申し上げます。

新工場は、当市の工業開発の拠点となるべき近藤工業団地内に、敷地一八、〇〇〇平方米、総建棟四、六〇〇平方米に工場、倉庫、事務所、食堂等、最新の設備を取り入れ、その近代的偉容は将来に向って飛躍的発展を期しておられるわけで、近く開通される東北自動車道を利用すると東京から三十分、又館林駅からの交通の便にもめぐまれた立地条件の最適さからおして、社長さん、工場長さんをはじめ各社員の方々も、益々意欲的に活動できるものと大いに将来を期待するものであります。

油圧式パイルハンマー、バイブレーションローラー、タンピングランマー等をはじめ、貴社生産の建設機械は、いまや我が国のみならず東南アジアやアメリカ、西欧にも輸出の歩を進め、海外代理店三十ヵ国にも及び輸出貢献企業として前途洋々たるものがあります。

また、経済発展には機械力は欠くことのできないものであり、常に公害のない性能の高い製品の開発に努力され、着実に実効を挙げられている貴社の真摯な態度は、必ずや報いられるものと信じます。

今後益々社業の隆盛と、建設業界の機械化、省力化に貢献し、国土開発の支柱として大成されますことをご期待申し上げるとともに、三笠産業株式会社東京本社をはじめ、館林工場、春日部工場ならびに傘下各社の益々ご発展あらんことを心からお祈り申し上げお祝のことばといたします。

株式会社群馬銀行　取締役頭取　玉尾光次

春の陽あふれるよき日御社には館林工場のご落成を迎えられ、まことにおめでたく心からお祝い申しあげます。

かえりみますと、昭和十二年ご創業以来社運は日を増し年を追うごとに隆盛の一途をたどり、それにともなって本社の新築、館林、春日部工場の新増築と設備の拡充、近代化をすすめてこられ昭和四十二年には創立三十周年という輝かしい躍進の歴史を天下に誇示されるにいたりました。今や御社製品の優秀さは、広く海外にまで宣伝され、外国からの引合も一段と活況を呈するご隆昌をみせておられます。これはひとえに京谷社長殿の卓越した識見、経営手腕と円満なお人柄に加え、仕事を愛し、会社を思う全職員の協力一致の賜物であり深い感銘を覚えるものであります。ここに近代設備を誇る新工場の偉容を目のあたりにして、社長殿はじめ全職員の方々の感激いかばかりかと想像にあまりあるものがあります。

もとより三十年以上にわたるこの長い間には数しれぬ障害や困難がたちふさがって、順調な航海ばかりであったと思われません。しかし逆境にめげず、順境に甘んじることなく常に生々発展を続けてきた御社の偉大さには敬服するのみであります。まことに事業の生命は永遠であります。いまや御社は押しも押されもしない、りっぱな企業体でありますが、もとよりこれがゴールではありません。それどころか、御社は今こそ、大飛躍へのスタートラインに立っているのです。御社の前途には限りない需要者が、さらにすぐれた製品の供給を期待しているのです。

どうか三十年をこえた長い伝統と歴史のうえに、本日を期して、さらに一段と輝く永遠に繁栄の灯をもやしてくださるよう心からねがってお祝いのことばといたします。

日刊建設産業新聞社　取締役社長　花村茂彦

このたび、三笠産業㈱館林新工場がめでたく竣工し四月八日の佳き日に完成披露の運びとなられましたことは、誠に慶賀にたえません。謹んでお祝詞を申し上げます。

貴社は特殊建設機械のトップメーカーとして国土建設の一翼をにない、従来館林工場、春日部工場において鋭意生産に力を注いで来られましたが、館林工場は需要の増大に応えるためには年々手狭となり、さきごろ館林工業団地に約二万平方メートルの用地を入手し昨年九月十六日地鎮祭を行ない、五千平方メートルにおよぶ工場建物を中心に工事を急いできたものと承っております。

これによりまして、今後の生産体制はすべて合理化、近代化され、いかなる需要にも応じ切れる能力を備えることとなり、新工場が三笠製品今後の躍進に果す役割は極めて大きなものがあると確信いたします。

貴社がこのように大きな躍進をとげつつあることは、京谷社長の卓越した経営手腕と織見とによることは申すまでもありませんが、さらにこれを支える京谷専務以下の幹部、すぐれた技術陣と、会社が一丸となった社員の方々の、努力の結晶であり、深く敬意を表する次第であります。

特殊建設機械であるバイブレーター、タンピングランマー、ローラーなど、三笠製品につきましては、多年にわたる製作経験と豊かな稼動実績があり、これに加えて技術面での研究開発によって、建設業界に広く深く浸透しておりまして、これは国内にとどまらず、海外にも輸出されて好評をはくしていることは、三笠の良心を示すものであり、同時に三笠の技術の高さが正確に評価されていることにほかありません。

同時にまたサービス面におきましては、三笠建設機械㈱大阪サービスセンター、中部・九州出張所を中心として全国都道府県ごとに優良特約店を配置し、万全の態勢をとっており、特約店を大切にする貴社の在り方はすなわち需要家への奉仕精神の現われと、深く感銘するところであります。

とくに今年は、社会資本の充実に重点が置かれ、国でも公共投資のうち、建設投資、中でも道路整備事業の大幅な推進に力を入れ、継続事業として今後とも大規模な建設工事が促進されることになっており、特殊建設機械の需要は一層増大上昇の線をたどるものと確信いたしますが、このときに当り、館林新工場の完成により、これら機械類の万全の供給体制を確立されましたことは、誠に時宜をえたものであり、改めて京谷社長の企業見通し、事業手腕のすばらしさに、ただ頭のさがる思いであります。

かように見て参りますと三笠産業㈱がトップメーカーとしての地歩を確保して、堅実に発展していることは当然の帰結であり、今後もまた〝世界の三笠〟として大きな飛躍を期待されるのでありまして、このたびの館林新工場の完成稼動は、この躍進体制をさらに一歩大きく推し進めた意義があり、心からお祝いのことばを捧げて、ごあいさつにかえるものであります。おめでとうございました。

東部地区代理店会代表　中道機械産業株式会社　取締役社長　中道喜安

三笠産業さんの主力である館林新工場が、見事に竣工されましたことは、深い誼みで結ばれておりますわたしどもにとりましてもこのうえない慶びであり、ところからお祝い申し上げます。

聞きおよぶところによりますと、新工場の近くには東北縦貫道の通過が決っており、開通の暁には、東京からわずか三〇分という至便の場所であるとか。地の利を得まして、いよいよのご発展が期待されるところでございます。

不況ムードとは申しながら、建設機械業界は政府の積極的な公共事業計画に支えられまして今年もまた生産の伸びが予想されております。とくに、土木建設機械は大型化と高性能化を中心に、昨年より今年、今年より来年と年々上昇カーブをえがいています。もちろん、いかなる時におきましても楽観は禁物ではありますが、機をみて敏ならざるは、企業を展開させる上で大きなマイナスであると考えます。時には勇断もまた必要なことです。

この点、三笠産業さんは、京谷社長をはじめ、トップのかたがたの卓越された力量により、メーカーとして常に着実な成長を遂げられており、かげながら敬服させられているひとりです。さらに特筆されることは、新製品の開発に注がれている情熱の強さです。この成果は、かずかずの機器を業界に送り出すことで実力のほどを示されており、このたび〝振動機〟の三笠〟から、より幅の広い〝建設機械の三笠〟へと、大きく飛躍された糧になったものと確信を深めている次第であります。ことに、バイブレーターは先進国アメリカに向け、技術を輸出されていますが、まことに痛快なことで、これこそ三笠産業技術陣の勝利を証左するなにものでもありません。国内に止まらず、外地でも盛んに活躍されていることは周知のことですが、この点、すでに「世界の三笠」としての貫録充分と申しても決してお世辞にはならないと思います。

冒頭にも触れましたが、三笠産業さんと当社はたいへん古くからの取引き関係にあり、いつも手をたずさえながら今日までまいっております。その間、決して順調なときばかりではありませんでした。不況の波に、共に苦しんだ一時期もありました。苦楽を共にしてこそはじめての〝仲間〟です。通りすがりの現場で、ふと三笠産業さんの機器が目にとまったとき、おっ、ここでも活躍しているな、と大変親近感を覚えるのも、やはり、こうした長年の間に培かわれた誼みの中から自然とにじみ出てくるものと、いつもながら思い返しております。

近年、建設機械といいますと、いわゆる重機のみを意識する傾向が強いのはたいへん残念なことだと思っています。工事そのものが大規模化し、それにともなう新工法の開発などで、投入される機械も大型化し、ダイナミックな印象がアッピールするのでしょうが、工事そのものの過程においては、どうしても人力に頼らねばならぬ部分もあり、また、汎用機器の占める活動分野もたいへん大きいことを忘れてはならぬと思います。わが国の場合には国情から申しましてこの点とくに強調されなければならないところです。

この意味から申しまして、三笠産業さんがこれからも活躍される分野は非常に大きく、今回の素晴しい設備と能力を有する新工場を完成されたことは、まことに時宜を得たご計画であり、竣工であるとおよびご期待申し上げる次第です。

京谷社長をはじめ、三笠産業さん社員ご一同の日ごろのご精進に深く敬意を表し、ますますの弥栄を祈念いたし、祝詞といたします。

西部地区三笠製品総発売元　三笠建設機械株式会社　取締役社長　小野逞三

三笠産業株式会社館林工場が今回目出度く御落成せられました事は御社の製品の西部地区総発売元としてほんとうに悦びにたえません。

私初め弊社役職員はどんなにうれしく思っている事か言葉にいい様のない喜こばしさで一杯です。

販売する者にとっては優秀なる商品を取扱っている事が何よりの心強さです。

加えて毎年新しい商品を開拓されて売らして頂く楽しみ、そしてこれによって商売の面白さが出るのであります。只単に儲かればよいという単純なものではないのです。

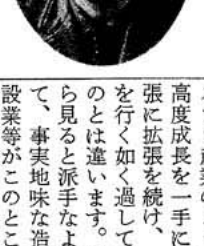
由来工場の責任としては新しい機械、優秀なる製品を開発されユーザーがこの機械を御使用になり、人手不足をカバーして最大の効果を発揮されて、現場員の喜こばれる姿を見る事により、初めて販売者の誇りとなり、誠に御目出度い限りであり、ここに謹しんで御祝申し上げます。

館林市工業団地の一角、拡大な敷地内に建てられた工場建物は、近代的システムに叶った構造と各棟の合理的な配列には大変感じ入りました。久しい念願であり、今後建設業界に大いに裨益せられる御構想に対しては、京谷社長初め各役職員の方々の「慧眼に対し、万腔の敬意を表するものであります。

又国益のため、海外に今一層雄飛せられるために、この壮挙に苦難を乗り越えられ、おやりになった事には心から頭が下がる思いが致します。

今や我が国が世界第三位の工業国となったのも、皆技術とアイデアを盛り込んだ商品を極めて安く売り込んだ結果に外ならないのであります。

どうかこの意味で、御社はバイブレーション機の専門メーカーとしての立場に於て安価に、しかも優れた技術とにより世界一の製品を造って頂き、海外は元より国内に於ても大いにこの誇りと自信とを以って売らせて頂き、弊社は元より各代理店ともども、発展させて頂けるよう切に御願いして御祝の言葉と致します。



三笠協力団体笠友会会長　桜電機株式会社　取締役社長　加藤弘

七〇年の万国博を大成功の内に終えて、とかく問題多い世情の内に七一年を迎え、四月八日、古代より行なわれている花祭り、今の言葉でいうビュウテフルの日に三笠産業館林新工場の落成祝賀式を挙げられることは、誠に御目出度い限りであり、ここに謹しんで御祝申し上げます。

館林市工業団地の一角、拡大な敷地内に建てられた工場建物は、近代的システムに叶った構造と各棟の合理的な配列には大変感じ入りました。久しい念願であり、今後建設業界に大いに裨益せられる御構想に対しては、京谷社長初め各役職員の方々の「慧眼に対し、万腔の敬意を表するものであります。

又国益のため、海外に今一層雄飛せられるために、この壮挙に苦難を乗り越えられ、おやりになった事には心から頭が下がる思いが致します。

今や我が国が世界第三位の工業国となったのも、皆技術とアイデアを盛り込んだ商品を極めて安く売り込んだ結果に外ならないのであります。

どうかこの意味で、御社はバイブレーション機の専門メーカーとしての立場に於て安価に、しかも優れた技術とにより世界一の製品を造って頂き、海外は元より国内に於ても大いにこの誇りと自信とを以って売らせて頂き、弊社は元より各代理店ともども、発展させて頂けるよう切に御願いして御祝の言葉と致します。

西部地区三笠代理店会代表　宝物産株式会社　取締役社長　末永等

このたび御社におかれましては、館林市内に最新式の機械設備を誇る広々と明るい近代的な工場を新築落成されましたことは、社長さんを始め社員並に関係者御一同のお喜びも一入深いことと拝察いたし、心からお祝い申しあげます。

御社は、終戦後いち早く近代国家建設に必要な建設機械の将来性に鑑み、必ずや急速に普及発達するものと予測され、振動機その他の特殊建設機械を、幾多の困難を克服して開発製造され、更に年と共に優秀な新製品を数多く開発され、機種も用途に適応した小型機から大型機に至るまで多種多様な巾広い製品が豊富に生産されるようになりました。又これらの機械は全国の津々浦々まで普及し使用されて絶大な信用と好評を博しております。更に今日では遠くアジア各国やアメリカ等に輸出されるまでに飛躍発展されて、その実績と名声は業界に於て、他社の追従を許さないところであります。これはひとえに京谷社長さんの優れた経営感覚と立派な人格に加えて、優秀なスタッフ及社員の方々のご努力の然らしむるところと感服し深く敬意を表する次第でございます。

時恰も激動の七一年の春、我が国の産業界も数多い課題をかかえ乍らも大きく躍進すべく、懸命の努力を致しておりますが、御社におかれましても、この立派な新鋭工場を中心にその機能を充分に発揮され総力を結集して、優秀な新製品の開発と生産の合理化に伴う、品質管理の徹底を期せられ、性能の向上を計ると共に、コストダウンなどに努力されて御社の「世界を結ぶ三笠製品」を旗印に特殊建設機械のトップメーカーとして、益々飛躍発展されんことを御期待するものです。又永年販売代理店としてご愛顧を賜わっている我々といたしましても、御社の製品を販売させて頂くことを無上の誇りとし喜びと思い、今後ともご期待に副うべく懸命の努力を続けて参る所存でございますから、どうかこんごともご指導ご鞭撻下さいますようお願い申しあげます。

ここに新工場の落成にあたり心からお祝いを申しあげ、社長さんを初め社員並に関係者各位の今後益々のご健康と、御社の一層のご発展とご繁栄を祈念いたしまして粗辞ながらお祝詞といたします。

株式会社　大林組　機械部長　依田潔

昨年より我が国の経済は永年に亘る高度成長より、長期安定成長へと大なる転換期を迎え、景気はやや停滞気味でありますが、土木建設業界はこの様な状況の中にあっても尚根強い投資意欲と、道路、鉄道網の拡充、公害対策、公共住宅の建築等社会資本充実のための公共事業投資に支えられ尚高度成長を続けておりました。この時期に建設機械メーカーである三笠産業㈱の館林新工場が装いも新しい近藤工業団地内にめでたく落成いたしました事は、誠に意義深い事であり、心よりお祝い申し上げます。

更申し上げるまでもなく、三笠産業㈱はバイブレーターの三笠として、早くからその名を業界に知られておりましたが、輾圧機械部門でも着々と実力を発揮し、そのめざましい進展ぶりが、いまや我が国のみならず東南アジアやアメリカ、西欧にも輸出の歩を進め、海外代理店三十ヵ国にも及び輸出貢献企業として前途洋々たるものがあります。

今後益々社業の隆盛と、建設業界の機械化、省力化に貢献し、国土開発の支柱として業界に大きく躍進されますことを期待するものであります。

寄せられておられる事とご推察申し上げます。

とは申しましても、当今の景気情勢では、さしもの高度成長も何かに防害されてこれ以上進めないように思われてなりません。

然し私共は、このような時局下に於ても何等恐るる事なく勇気と努力とを結集致しまして、新しく生れましたこの工場の如く新しい考えを樹てて、新しい行動を起し、内外共によおいを新たにし、共に手をたずさえて変動する景気情勢に立向って行く事を誓うものであります。

とは言うものの、迫り来る不況感を心良しとは思っておりません。しかし私共のたずさわる建設業界は、今までさわがれていた花形産業の鉄鋼、自動車、家庭電気、電子工業等の様なマスプロ産業のように、多年高度成長を一手に摑んで拡張に拡張を続け、一人我世を行く如く過して来られたのとは違います。所謂側から見ると派手なようであって、事実地味な造船業、建設業等がこのところ地味な成長に甘じさせられて来たお蔭で、このような不況下にもさほど大きな影響を受けないのは、やっぱり、社会産業構造というものは決して不公平のまま終るものではないという事を教えられました。

このようなことを考えますと、俗にいう細く長くというが如く、当今盛んに政府が申しているように、私共は長期安定成長型にびったりの産業に従事しているという喜こびを改めて嬉しく感じた次第です。

終りに臨み、不景気にさからうような感をいだく今度の館林新工場の拡張建設は、返って当面する不景気感を予測して、合理化増産により益々その得る所を強めた感をいだきます。

私は今、館林市工業団地に新設された新工場の勇姿を眼のあたり見る時、とかく世情論に対して私共の心に抱く不安感を打消し、寧ろ安定感の湧いて来る不思議な勇気を止める事が出来ません。

これからの前途に対して幸か不幸かは自分自分の心の定めから発走するものです。

我々笠友会会員一同は確実なる心の安定の上に立って、三笠産業株式会社と共にこれからも更に前進する事を決めました。

ビュウテフルの一日を記憶して。

は、業界の注目の的であります。土木建築工事にはコンクリート打設はつきものですが、これの突き固めは、戦後しばらくの間は竹竿でつっつくと言った原始的な施工法でした。当時進駐軍の工事でバイブレーターが使用され、国内の工事でもこれの使用が検討されるやいち早く、バイブレーターの製造に取り組まれ、幾多の困難を解決して、見事に三笠バイブレーターの製造に成功されました。バイブレーターの使用により、労務者の削減、いわゆる省力化は著しいものがあり、又コンクリートの品質管理にも一段の進歩を見たのであります。基礎、路盤の締め固めは、従来道路や広い敷地では大型のロードローラーがあり、これを使用して締め固めていましたが、狭い敷地や基礎は以前として「タコ」を使用する人力作業の幼稚な施工法でした。これの機械化施工も次第に考えられ、外国よりの輸入ランマーが漸く広く使用され始めた頃、三笠産業㈱はこの機械の国産化に努力され、独自のタンピングランマーの製作に成功されました。土木工事はこれ等の普及発達によって施工法は機械化され、省力化されて、大いにその恩恵に浴したのであります。この様に土木建築業界にとりましては誠に縁の深いなくてはならぬ機械ばかりを製作していただいたと申しても過言ではありません。今日では最早、バイブレーター、タンピングランマー、コンパクターなしには土木建築工事は考えられません。その功績の大きさは誠に測り知れないものがあります。機械の改良、改善に関する研究は又一段と熱心なものがあり、遂に80型タンピングランマーの様な完全無欠とも言える傑作機を造り出す事に成功され、進んでより高性能なバイブレーションローラーの製作に、更には油圧式パイルハンマーへと次から次へと新製品の完成に成功された事は只驚くばかりであります。これは京谷社長の卓越した見識と豊富な経験、それから太平洋戦争前後の苦難の道を乗り越えて来られた不屈の精神による指導の賜であると信じます。これに加え社長の意を体して、苦楽を共にし会社発展のために奮闘努力した役員の方々、職員皆様の努力の結晶であると思います。創立三〇有余年益々発展を続けている時期に発祥の地とも言える館林市に新しく工場を建設された事は誠に意義深いものがあると存じます。

春たけなわの四月八日、創立記念と日を同じくしてここに竣工式を迎えた新工場はこれからの躍進に大きくふくれ上っていく様に感じられます。三笠産業㈱のすばらしい技術とたゆまざる努力に加えて、新設備を誇るこの新工場が誕生しました事は、まさに鬼に金棒、ますます発展されること疑いなしであります。この工場の竣工を跳躍台として、国内メーカーより国際メーカーへと大きく飛躍し、発展され事を念願してお祝の辞と致します。

社団法人
日本建設機械化協会
会長　最上武雄

桜花爛漫と咲き乱れる花まつりの佳き日に、かねてより建設中であった貴社館林新工場の落成式が挙行されますことは誠にお目出たいことであります。本協会を代表してここに謹んでお祝い申し上げます。

貴社は昭和十二年に創立されて以来本年をもって三十四年目を迎え業績も益々順調な発展を遂げておりますことは御同慶の至りであります。

今度立地条件や労働条件にめぐまれた館林工業団地に貴社の新工場が完成して建設機械の生産が拡大強化されますことは業界にとりましても大きな喜びと存じます。

貴社で生産されているコンクリートバイブレーター、コンクリートカッターその他のコンクリート工事用機械および振動コンパクター、振動ローラー等の締固め機械は現在国内の建設工事に数多く使用され、また東南アジア、韓国、米国等にも多く輸出されている由であります。昨年六月の貿易記念日に通商産業大臣より昭和四十五年度の輸出貢献企業として表彰を受けましたことは貴社の実績が認められた証左であり、これは偏えに長年の間京谷弘道社長を中心として役員および従業員が一致協力して専門とする建設機械の開発と改良に努力を重ねられた賜物でありまして深く敬意を表する次第であります。

わが国においては現在社会資本の充実を目的とする公共投資や経済発展のための民間設備投資が極めて活発で、その投資額は年々大きな伸び率を示しており、昭和四十五年度の投資総額は十四兆円を上回るものと予想されております。このような膨大な建設投資が円滑に消化されているのは機械化施工法の進歩発達に負うところが極めて大きく優秀な建設機械の導入がその原動力をなしていることは申すまでもありません。

最近特に都市における建設工事の騒音や振動等が公害として社会問題となっており、また建設機械の生産を行なう場合についても、工場排水や排煙等について調査を行ない、必要により化学的処理をほどこして公害を未然に防ぐことが要請されております。貴社はこれらの公害問題の研究に着目して、建設工事騒音の解決策として、油圧方式を採用した新製品を開発する等メーカーとしての責務に忠実な歩みを続けていますことは慶賀の至りであります。

終りに臨み貴社が館林新工場の落成を機会に更に一段と社業の充実をはかり、大きく発展されるよう期待して止みません。

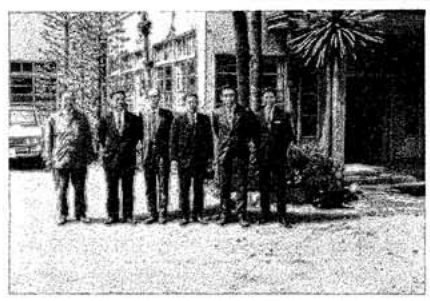
御郷重なる御祝詞を賜わり、まことに有難うございました。甚だ勝手ながら、頂戴した御順に掲載させていただきました。

編集部

日韓合弁建設機械メーカー第一号

韓国三笠建機株式会社

設立さる



館林工場の玄関前にて、向って右より三人目李亜新機械社長、元社長

八芳園に於ける歓迎懇談会

国内に於ける国土建設事業の重要性と恒久性、それに伴なう建設機械の将来性等を関係者のすべてが深く認識し合い、この際合弁事業の設立及び発展が一私企業の営利追及よりも日韓両国家経済の大局的見地からその貢献するところ大なるものと考え、昨年初めより鋭意その実現に努力を重ね数年来より精力的に三笠製品を韓国に輸入販売し、同国の建設機械業界において第一の実績と経験を持つ、亜新機械株式会社（旧称三益商社、社長李快寧氏）では、かねてからコンクリートバイブレーター等、日本から輸入していた三笠製品の優秀性に着目して、日本側三笠産業と韓国側亜新機械とそれに三笠製品の韓国への輸出入窓口として尽力してきた日本側コスモ貿易、韓国側慶元物産両社の社長を初めとする幹部の再度にわたる訪韓、訪日の交流を重ねた結果、韓国三笠建機株式会社「韓国三笠建機株式会社」が誕生することとなった。

韓国三笠建機株式会社の主なる合弁内容

一　商号
韓国三笠建機株式会社

二　住所
本社　大韓民国ソウル特別市鐘路区貫鉄洞十三ノ十三
工場　ソウル市郊外京畿道富川郡五〇丁面古康里一七〇―三

三　業務
一、三笠コンクリートバイブレーター、三笠タンピングランマー、三笠バイブロコンパクターその他三笠土木建築用機械機器、並びにその部分品の製造及び販売

四、出資
三笠産業　50％　五万弗　機械設備
亜新機械　50％　五万弗　現金出資
合計　十万弗

五、技術援助
技術援助契約を締結してロイアルテイを支払う。

六、製造及び販売
三笠製品の大韓民国内に於ける独占的製造権並びに販売権を持つ

ソウル市慶元機械の屋上にて向って左より京谷社長、元社長、李社長、高野課長、コスモ貿易中島課長

ソウルの亜新機械工場を訪ねて、向って左から元社長、京谷専務、奥コスモ貿易社長

新会社の役員

韓国側
代表理事　李快寧（亜新機械㈱代表理事）
理事　襄孝栄（亜新機械㈱専務理事）
〃　趙原水（亜新機械㈱常務理事）
〃　李武寧（亜進機械㈱理事）
監査役　元充喜（慶元機械工業㈱代表理事）

日本側
理事　京谷達也（三笠産業㈱専務取締役）
〃　小林常次（三笠産業㈱取締役）（館林工場長）
〃　高野長四郎（三笠産業㈱輸出課長）

足利モーター工場見学の李社長一行

万国博を見学する李社長と元（慶元機械）社長

株式会社 宮地機械本社社屋落成

日時　二月六日
場所　練馬区高松町六の二八

宮地機械社長と本社新築社屋

去る二月六日、㈱宮地機械（社長宮地欣一氏）では、練馬区高松町六の二八にかねてより建設中の新社屋が落成され、正午よりこの披露宴が取扱メーカー及び納入先等含めておよそ一五〇余名を招き、盛大に挙行された。

落成式は宮地欣一社長の挨拶に始まり、取扱メーカー代表の祝詞と続き、やがて披露宴に移って、和やかな一刻を過ごした。当ビルは目白通りより谷原のガスタンクを目指して直進し通称オリンピック道路を右折した通りに面し交通面に於ても非常に恵まれた環境に有り、調布店と併せてその営業網の拡大並びに充実される事が確立されたわけである。社長はじめ、各社員の方々も益々意欲的な活動が出来ると大変な張切り様であった。

新社屋の概要は、敷地七〇坪、建坪は事務所、社長室、会議室、宿直室、応接室等併せて四五坪、倉庫、修理工場三〇坪（二階建て）で道路側にショールームを設け、各メーカーの主力製品を展示するとの事である。

これで名実共に、販売、アフターサービスと確立された訳であり、我々メーカーの期待も大きく、今後の宮地機械さんの発展が大いに望まれるものである。

これからは本社を拠点に、三多摩地区及び東京近辺は、調布店とこの二つの歯車の回転が今後さらに建設業界に浸透して行くものと思われる。それだけに我々メーカーも惜しまぬ、協力を尽し、㈱宮地機械さんの益々の発展を心より、お祈りする次第です。

徳永記

阿部機工（株）展示会

期日　二月十三日（土）、十四日（日）
場所　山形県鶴岡市、阿部機工（株）内

恒例の阿部機工㈱主催による展示会は、二月十三日（土）、十四日（日）の二日間、北国の鉛色した空の下、盛大に行なわれた。ここ鶴岡は、人口九万余、山形県の西北部に位し、市街の東側を赤川が、その支流の青竜寺川と内川が市の中央を流れ、東方はるかに出羽三山がそびえ、北に鳥海山の雄大な秀峰を仰ぐことが出来る。

元酒井十四万三千石の城下町で、古来から修験場として有名な、羽黒山の麓に有り、米どころ庄内平野に面している極めて豊かな街で、市内には明治の文豪高山樗牛の生家跡に「文は是に至りて畢竟人なり命なり人生なり」という碑や、津軽地方の大飢饉で難民を救ったという鈴木今右衛門の墓のあるのが印象的である。

二月中旬なのに、今年は例年に比べて雪が少なく、世間の不景気をよそに道行く人の足どりも心なしか軽く、もやの様な寒気を通して望まれる山々には、白銀に輝くまばゆさとは対照的に、黒肌が処々見られる。

展示会は、阿部機工㈱の傍系会社五社が共催で行なわれたもので、景品付の展示即売会である。

第一会場の阿部安太郎商店ではハウス関係等、第二会場の阿部機工では、弊社製品をはじめ、電動工具、切削工具等で、発電機、ランマー等を動かすと、静かな町も何事が起きたかとばかりに活気づいて、恰も町全体が一大行事のような観がした。

我が社からの出品機種は、左官屋さんにも使用されているMTR＝80型タンピングランマー、表面仕上げに評判の良いMVC＝五〇型及び一〇〇型バイブロコンパクターをはじめ標準型、錐振型バイブレーター、MHC＝8型ハンドコンクリートカッター等であった。

二日間の総入場者、約一五〇名、そのほとんどは左官屋さんなどの建築関係の業者であった。

最近の傾向として基礎工事もしなければならず、その場合、どんな機械を持っていた方が良いか、という質問も有り、減反による農村経済の不振を反影して、弱少乍ら徐々に事業を伸したいとの意欲が感じられた。又中には、この展示会を首を永くして待っていたお客も有り、老舗としての阿部機工さんへの期待が、目のあたりに感じられた。

なお、三年程前購入して頂いたランマーが未だ一度も、故障していないという話を聞き、メーカーとしていささか誇りを感じると共に、更に一層ランマーの様な商品を世に送ることが、メーカーとしての良心であり、責任でもあると思った。

最後に、この展示会が成功裡に終ったことは、偏に阿部機工さんをはじめユーザーの御協力が有ったればこそであり、ここに深くその御厚意を深謝すると共に阿部機工さんの今後の御発展をお祈りして止みません。

岩崎報

（送映時間変更）

全国三笠代理店会開催

お知らせ

三笠館林新工場落成記念
第十五回東西合同三笠代理店会開催

日時　昭和四十六年五月十二日（水）―十三日（木）

御集合場所　東武浅草駅
御出発　浅草駅発特急午前九時四〇分
（行程及順序）
十二日、午前一〇時四七分館林駅下車、三笠館林新工場視察―正午工場出発、花山公園つゝじ観賞（御昼食）―茂林寺、文福茶釜見物、午後二時茂林寺発―午後四時三〇分水上温泉「聚楽」到着、
午後四時四〇分代理店会（優良代理店表彰）、懇談会、午後七時懇親会
十三日、午前一〇時自由解散
以上

中道機械産業(株)中央本部東北本部館林工場見学並に講習会

2月5日～6日　於三笠館林工場

建設機械の総合商社として、その名を全国目は三笠本社にお集り願い津々浦々に会議室に於いて三笠本来の活動方針と会社組織等の説明、担当者の紹介等を行ない、これが終的な信頼を寄せられている中道機械産業㈱の中央本部及び東北本部の有望若手社員五十六名を対象に去る二月五日～六日の両日弊社館林工場に於いて三笠製品の講習会を行なった。

すでにご周知のように最近の建設機械の発展は、まことにめざましく、その機種も数限りなく、新時代の現場にマッチした機械をどのように販売し、どのようにしたらお客さまにご満足して使っていただけるかを考えたら、セールスマンは常に製品に対する知識とその用途を身につけていなければならないことは今更申し上ぐるまでもありません。

そこで中道機械産業さんでは「中堅級の汎用商品で、永年に亘る安定需要の大きい商品」をマスターしなければ、ほんとうの意味のセールス活動はできないという基本的な営業方針のもとに、毎年御依頼を受けて弊社製品の講習会を行い、その成果も逐年高まりつつあるわけです。そのようなことで、今回行なわれた講習会の概要を御紹介申し上げますと、先づ講習第一日目は三笠本社にお集り願い津々浦々に会議室に於いて三笠本来の活動方針と会社組織等の説明、担当者の紹介等を行ない、これが終的な信頼を寄せられている中道機械産業㈱の中央本部及び東北本部から生産作業、技術の有望若手説明、実演と運転指社員五十六導並びに取扱方法等名を対象に行ないました。引去る二月五続いて第二日目は、日～六日の三笠製品のセールス両日弊社館ポイント並びにこれに伴う質疑応答が熱心に続けられました。この講習会は短期間にマスターしていただくために、特に一番必要な取扱方法について、一人、一人が各種の機械を実際に動かして、身をもって体験し、納得して翌日からすぐに役だつようになって貰うことが目的なのです。こうして三笠の工場を見学された方々が口を揃えていわれることは、厳密な部品検査と規正された生産工程を経て、出来上がる製品には絶対の信頼があるとえば保証書付で発売されているMTR＝80型タンピングランマーなども今年で六年にもなり、今なお無事故記録を更新しているが、これなど一見外観からは他社製品となんら変りのないように思われがちですが、一点、一点の部品を手に取ってご覧になった方々には、なるほど故障しないのが、あたりまえだと思われたようでした。こうして三笠製品の知識を身につけて帰られる営業員の方々は、おそらくメーカーの営業マンたる資格をもって、お客のご要望に即応して下さるものと、吾々も又確信を深めることが出来ました。以上が講習会に対する概要でありますがこの二日間、中道機械さんの方々は、実に熱心に受講されました。私はいまだかつてこのような真剣な講習風景に接したことのないほどのハッスル振りでした。私はここに誌上を借りて深く敬意を表します。

弊社は特に講習会日というようなものを決めてありませんので、いつ、何人でも御希望に応じた講習会を行なうことにしております。従って代理店、並びに特約店各位の皆様におかれましては、ご遠慮なくお申付けくださいまして三笠製品の拡販にご協力、ご支援を賜りますようお願い申しご書面を賜わり工場従業員上げます。末筆ながら今回一同深く感激致しておりまご出席賜りました各位の今す。（大沢報）

（実演指導風景(1)）

（実演指導風景(2)）

忍法猿楽流 三笠丸 NO.21

永井 郁

京谷社長宅 新年賀詞交歓会の記

日時　昭和四十六年一月四日
場所　葉山マリーナに於て

金融引締めによる不景気風が吹きまくった激動の一九七〇年がおわって、それとは裏腹に二日夜半から降り続いた雪は、あたり一面を銀世界と化し、あたかも、新年を祝福しているかのようであった。本年も一月四日、恒例の社長宅に新年の賀詞交歓会が開催された。

当日の葉山は、コートも要らないほどの小春日和に恵まれ、一面の雪景色はひときわ自然の美しさと見事な調和を存分見せて貰った。

例年通り主任以上が社長宅奥の間に社長御夫妻列席の下に、長谷川春日部工場長の音頭により乾杯し、賀詞を交歓した。

（社長宅の庭にて記念撮影）

それから華やかな会社の女子主任達のお接待で、お屠蘇を頂戴した後、早やくも雪の解けた、芝生の庭園に下り立って新春の陽をいっぱい浴び乍ら、社長御夫妻を囲んで和やかな記念のカメラにおさまった。

引続き葉山マリーナに於いて、社長御夫妻を初め本社員や館林の小林工場長、斉藤課長、春日部の長谷川工場長、小森係長、中央螺旋管の田口社長、桜電機の加藤社長、横手工場長等三笠グループの方々も一緒に参加されて賑やかな祝宴が開かれた。

加藤社長の乾杯の音頭に始まり、京谷社長より「今年は、猪の年ですから、会社が定めた各々の目標に向って、猪のごとく突進しましょう」と言う意味の全社員に対する心暖たまるご挨拶があり、我々社員一同大いに感銘し、今後の会社生活にこのお言葉を反映させなければならないと誓い合った。

宴も次第に盛り上り余興の歌なども出始めて絶好調に達する頃、海岸を背にした社長御夫妻の後に遠く夕焼富士が、うっすらと霞の中に浮かび上って、なにかの六組が抽籤で順番を決めた。引続き、各人が隠し芸を披露し、箱根の山に一ツ一ツ灯りが消えて、冷い夜の帳りが地上を覆う頃、さしもの三笠の兵も、静かに夢路についていた。

翌十五日、今年成人式を迎えた平松課員に、社長より、お祝いの言葉とお祝品が送られ、共に三笠の柱となって頑張ることを誓い合った。

朝食を済ませた後、三々五々湯気の立つ朝の箱根の山に別れを告げ、今年も又、新たな意欲を燃やして健闘することを心に決めて帰途についた。（岩崎和義）

（葉山マリーナにて京谷社長の新年の挨拶）

三笠本社初午祭

去る二月二日(木)、恒例の初午祭が、本社屋上に於いて行なわれた。会社の隆盛発展と、社員の無事息災及び、取引関係諸会社各位の益々の御繁栄を祈願して、毎年一回初午の日をお稲荷さんへの感謝の日として、全社員でこの初午祭を催しているものである。今年もこの式典を無事終了した。

取引銀行や協力工場関係の方々を多数御招きして、神田明神、加藤宮司の司祭により、古式豊かな神事を取り行なった。越天楽の雅びやかな調べの中を、京谷社長以下本社役員、各部代表者、来賓各位の玉串奉奠と、滞りなくすませて、夕闇せまる頃御神酒で乾盃して、各々盛況裡に全社あげての儀式を終えた。（今野）

四十六年度三笠新年会

日時　一月十四～十五日(木・金)
場所　箱根　新玉旅館

恒例の三笠新年会は、屠蘇気分も醒めやらぬ、一月十四日、十五日の二日に亘り、箱根の山麓、早川の清流に臨んだ塔の沢の「新玉の湯」に於て催された。

十四日、午後四時、新宿発の小田急ロマンスカーは快い音を立て乍ら、我が三笠産業の面々を乗せて、一路夕闇迫る箱根の街へと驀進した。我が社の製品がこの工事の一つ一つに多数使用された高速道路を右に眺めながら、今宵繰広げられる宴会に何か、意義有るものを感じたのは一人私ばかりでは無かったと思われる。

午後六時三十分、宴会に先立ち、京谷社長より、「今年は、四月館林新工場落成の年でも有り、不況感を克服して、全社員一致団結して頑張って欲しい」とのお言葉があり、京谷専務の祝福の乾杯で、宴会は始められた。

飲む程に、酔う程に宴もたけなわとなり箱根芸者の情趣豊かな踊りも、朦朧とした頃、待望の福引ゲームが始まった。ゲームは二人一組で行なう二人羽織というもので、古浜、藤井の両顧問の外、館林、春日部の両工場長も加わって、総勢七十余名にも及ぶ大多数となった。それだけにこの旅館の宴会場も見るからに狭くなってしまった。そこで舞台で行なえるゲームということで、幹事が知恵を絞って考え出したものだとか、内容は、前の人におんぶする恰好で目かくしされた後の人が羽織の袖から手を出し、前に置かれた皿の大福餅を前の人に食べさせるゲームで、一チーム、十二人の六組が抽籤で順番を決めて時間を競うものである。

このゲームには、チームワークが必要とされる為、他の組に負けじとばかりに皿の大福に手を出すのであるが、目の見えない後ろの人は前の人の鼻に大福を食べさせようとしたり、前の人は大きな口を開けて大福を探し求める恰好なぞ、まことに滑稽であり、終ってみると大福餅の粉でピエロの様に顔一面が白粉だらけで、会場は正に大爆笑の一時であった。賞品にも特に思いを凝らして有り、貰った賞品を見較べ乍ら、みんなの健闘を評し合っていあまり和気あいあいと楽しみ過ぎた為か予定時間より三十分近くもオーバーしてしまう始末であった。

ここに紙上を借りて本日の祝宴を催して下さった社長御夫妻に感謝すると同時に何時までも会社のために御健闘下さるようお祈り申し上げます。

営業部東販二課　鈴木　博

松浦会に出席して

（二月九日熱海水葉亭に於て）

寒が明けてから急に寒さが厳しくなった。尤も昔から寒が降り出してこの辺一帯の山野は鹿の子まだらの雪景色に早代りしつつあった。

会場に当てられた伊豆山の水葉亭は、海岸を見下ろす断崖の上に建てられていて、その奥庭にいくつかの離れ家が点在している。そのうちの三棟ばかりが吾々の宿に当てているわけで、それぞれの座敷から遙かに初島を浮かべた伊豆の海が美しく眺められるのがおいしい。

値打ちというとこであろう。年寄の癖に割と気の早い連中が揃っているせいか、何んでも三時頃までには全員が揃ってしまったとか、遠く石川県金沢から今年喜寿を迎えられるという松本翁が出席され、昨年に次ぐ連続二回目の御参加には、心から敬意を表した。それに人気者の神戸の子安氏、京都の三浦氏、名古屋の岩田氏、浜松の米沢氏等何れも年に一回とはいえ元気なお顔を見せて下さるだけでも嬉しいことである。

祝宴は、島田会長の挨拶があってから、相変らず賑やかな裡にも専ら懐旧談に花が咲いて、夜の更くるのも忘れて懐かしの一夜を楽しく過ごすことが出来た。既に齢い古希を出た者、或いは真近な者、昔でいうなら、とっくに老人の仲間入をしている連中なのに、二次会の館内ダンスホールでの踊り振りは、まことに壮者を凌ぐものがあった。

14回 笠友会総会開く

今年は久方振りにお近いところで、観劇会と決定し、三月六日（土）国立劇場の梅幸、羽左衛門、菊之助等歌舞伎公演の白浪五人男で知られている青砥稿花彩画の通し狂言を、稲瀬川の勢揃い（時間の都合で大詰の捕物三場を残す）までゆっくりと観賞して、中幕にこの公演の圧巻ともいうべき梅幸の、京鹿子娘道成寺を入れて、豪華なお囃子連中による、まことに絢爛たる日本舞踊を心ゆくまで満喫させて貰った。

たっぷり五時間余の観劇を終り、一同車を連ねて、浜松町の総会々場並に懇親会々場に当てられている世界貿易センター会館ビルの離宮飯店に到着、ただちに、幹事会社日本トムソン㈱斉藤課長の司会によって、第十四回総会の幕を開けた。桜電機㈱社長の加藤会長が、病気で欠席されたため、田摩フレックス㈱社長が代って挨拶され、「この間の佐藤造機の倒産などあって、経済界の不安は極めて深刻なものがある。吾々の身近にも不況の風が迫りつつあるような感じがする、お互いに警戒すべきであった。」との挨拶があり、引続き田口中央螺旋管㈱社長の事業報告、川口三笠産業経理部次長の会計報告などあって斉藤製作所長の閉会の言葉で幕を閉ざし、お待ち兼ねの懇親会に入った。三十八階の高層ビルから眺める東京の夜景は実に素晴らしい。一同次々と運ばれる中華料理に舌鼓を打ち、酒杯を重ね、和気靄々の裡に時のたつのも忘れて歓談に花を咲かせた。やがて佐藤製作所長の手締めでお開きとなり、午後九時散会した。（川口報）

（離宮飯店に於ける懇親会）

はなかろうか」と警告された、続いて京谷社長から「只今田摩社長の仰しゃったように今年に入ってから不景気という声が一段と高まって来たようである。しかし不景気になることは、なる原因があってなるので、当然来るべきものが来たまでのことだと思う。好況期にウンと儲けていた人は慌てるでしょうが、吾々のようにコツコツやって来た者には、慌てたくとも慌てる材料がないから、それほどこわがることもないと思う。凡そ不景気というものは、一種の経済の、はやり病みたいなものだから、余り神経質になって、皆んなで言いふらすと、益々深刻化して、それほどでもない人までも、ノイローゼになってしまうおそれがある。そこで、お互に不景気という悪い言葉は使わないようにしたい。しかしその渦中にある限り、多少の巻添えを食うかもしれない。だが何れは又元の景気に戻るのだから、お互に用心し、辛棒し、元気を出して、頑張ることに致しましょう」

"昭和46年度" 建設機械展示会

主催　日本建設機械化協会

【開催予定日】

4月16日(金)～5月5日(水)　東京見本市
5月12日(水)～18日(火)　大阪市
6月4日(金)～9日(水)　新潟市
7月17日(土)～26日(月)　東京都
10月15日(金)～20日(水)　福岡市